

筑波大学新聞

第300号

編集責任
筑波大学新聞
編集代表
福原直樹

TEL: 029(853)2040・6699
E-mail: shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
月刊

発行所
筑波大学
茨城県つくば市
天王台1-1-1

紙面から

北条で竜巻発生
パイオカフェ
つくばピアノ
つくば芸術祭
本紙記者ルポ
ラブレール日本セvens

竜巻 なぜ起きた
筋肉がつくしくみについて
同世代間教育活動に感謝状
初夏に芸術の花 咲く
セグウェイに乗ってみた
去年の雪辱を晴らし優勝

11 10 9 4 3 2

竜巻つくばを襲う

北条地区に甚大な被害

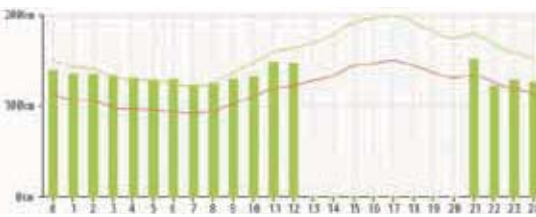


竜巻で電柱が倒れるなど、大きな被害を受けた北条地区

上空に強い寒気が入り、大気の状態が不安定になった5月6日、つくば市を中心に北関東各地で突風による被害が発生した。同市北条地区では12時45分頃、竜巻が発生。家屋の倒壊や電線の断線など、甚大な被害を受けた。

茨城県のみでは、同市内で14歳の中学生1人が死亡、37人が重軽傷を負った。また5月9日現在、827件の建物の損壊が確認されている。

北条地区は本学生などによる学生組織「つくば山麓地域づくり研究会」(通称「チームじやっく」)などと連携したまちおこしが進められるなど、本学との関係が深い地域。6月には本学生と地域の住民によって修繕された「宮清大蔵」で世界のトップフルティス



当日の工学系F棟の使用電力。13時から20時の使用量がゼロだった



6,7面 本紙OBが語るあの日の筑波大
8面 写真で振り返る筑波大学今昔

司馬名誉教授に印国家勲章

経営者育成を評価

本学の司馬正次名誉教授が3月22日、インド政府から「パドマ・シユリ」国家勲章を授与された。同勲章は、文化芸術、科学技術、などの領域で、インドに大きく貢献した人に与えられるもの。同教授は、同国の製造業の発展への貢献を評価され、デリーの大統領官邸で行われた授与式で、パティル大統領から直接メダルと表彰状が授与された。

同教授は1986年以降ハンガリーやアメリカで日本のものづくりのノウハウを現地の経営者や技術者に教えたり、経営幹部を育成する国家プロジェクトを立ち上げ、成果を上げてきた。2004年には当時のインド大統領が製造業の発展の力添えを依頼。2006年、JICA(国際協力機構)が日本側の支援を担当

することで日印両首相が合意し、翌年8月「インド製造業経営幹部育成支援」プロジェクトが始まった。プロジェクトは社長、上級経営幹部、中級経営幹部、中小企業育成に分かれ、日本から特別講師も招かれた。教授はその先頭に立ち、「未来の変化を見つづける社会観察法」「顧客第一主義経営」「仏の三つの目によるリーダーシップ」など、インドの製造業発展に必須な方法論の浸透に努めた。プロジェクトは順調で、この

プロジェクトの中から、同国の貧困層を対象とした簡易型冷蔵庫の開発に成功し、電気電子学におけるノーベル賞とされるアメリカのエディソン賞も受賞した。同教授は自らのモットーについて金魚鉢の中の金魚を理解する方法に例えた。「外から金魚を見るだけでは駄目。金魚鉢の中に飛び込み、一緒に泳ぎ、金魚から学ぶ姿勢が大切だ。インドには、自分の国の未来に大きな夢を持ち、目を輝か



パドマ・シユリ勲章を授与される司馬教授



4月9日に開催された新歓祭。今年も数多くの団体が新入部員を獲得するため、春の陽射しの下で声を張り上げていた。新歓に携わる学生の多くは2年生。1年前の自分を思い返しながら、今年は先輩として、この場所で新入生を迎える。(撮影・原啓一郎=社会学類)

つくば歳時記

今年もつくばの春は寒かった。学内では冬向きの服装で花見に興じる姿も見られた。そして少し春らしい気候になったのもつかの間。連休前半の豪雨がやんだかと思えば、後半は雷、ひょう、そして竜巻。市内の被害は甚大で、最後まで油断できないゴールデンウィークとなった▼気を張っていた新入生も緊張が解けてしまったのか、例年連休明けの寝坊や遅刻が増える。我ながら耳が痛い、「初心忘るべからず」。気だるさ、抑うつなどの症状を呈する「五月病」にはくれぐれも注意を▼病氣といえは連休中、父の四十九日を迎えた。つくばに引っ越して以来、数えるほどしか会っていないが、たことが心残りだ。「親孝行したいときには親はなし」という川柳に初めて共感した。遺骨に布団はかけてやれない▼全国では引き取り手が現れずに地方自治体で処理される無縁遺骨が増加傾向にあるという。驚いたことに身元不明の遺骨よりも、親族が引き取りを拒否する例が大多数だという。最近よく耳にする孤独死も、無縁遺骨も、現代の「無縁社会」の象徴だ▼新しくできた友だちと楽しく過ごしたり、家族や旧友に会うなどのリフレッシュをすることが五月病患者には必要だとされている。梅雨に入る前のこの5月に、人との「つながり」を改めて確認してはどうだろう。

鹿屋体育大学と連携協定

スポーツの発展めざす 施設の共同利用も

鹿屋体育大学(鹿児島県鹿屋市)との連携協定が、4月26日に本学で締結された。調印式には本学の山田信博学長、鹿屋体育大学の福永哲夫学長らが出席した。鹿屋体育大学は、国内唯一の国立体育大学。アテネオリンピックで金メダルをとった競泳選手の柴田亜衣選手をはじめ、優れた選手を多数輩出している。協定では、両校の特色を活かした連携で体育・スポーツ分野における教育研究を推進し、わが国の先導的役割を果たすことを目的としている。

今回の連携で目指すのは、「学部学生の教育の充実及び交流の推進」「共同研究の推進及び高度研究施設の相互利用」などを含む4点。ヨットやウィンドサーフィンなどの海洋スポーツ実習の相互乗り入れの実施や、両大学のスポーツ施設の相互利用を行うことで、一般学生や体育専攻学生の教育の充実をはかる。研究面では、施設・設備の共同利用や研究交流を推進していく考えだ。

山田学長は、「両国立大学は、オリンピックの視点で連携協力し、両大学の強みを生かして機能の強化を図らなければならない。『東の筑波、西の鹿屋』として、体育・スポーツ分野で日本を先導していきたい」と述べた。

除染に向け、研究進む

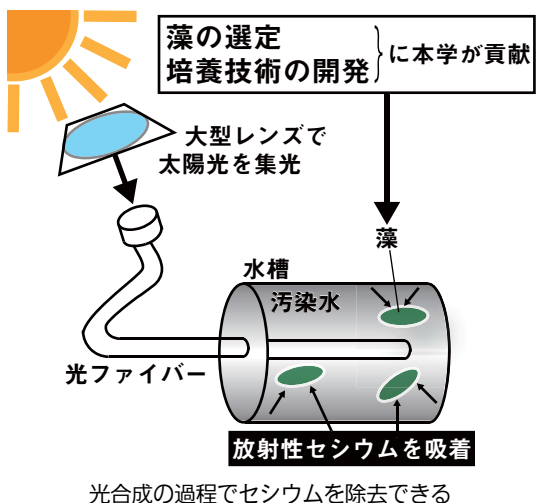
井上教授ら研究グループ、守友教授

新たな除染技術開発

東日本震災の発生以降、福島第一原発事故で広まった放射性物質は、大きな社会問題となっている。多くの研究機関で除染に向けた研究が進められる中、本学でも新たな除染技術が開発された。今後は実用化へ向け、さらに研究が進められる予定だ。

藻類の性質生かし除染

藻類の力で放射性セシウムを取り除く装置の開発を、本学と理化学研究所、慶應義塾大学などの研究グループが進めている。この中で、本学は放射性セシウムを7割以上除去する藻類3種を特定した。開発された装置は、カリウムと間違えてセシウムを取り込む植物プランクトンの性質を利用したもので、海中や水田中の放射性物質を除去する技術の確立を目的としている。



率を測定。理化学研究所が太陽光を効率的に集光する「フレネルレンズ」を開発し、慶應大は、集光システムで集めた太陽光を光ファイバーでプラント内に伝送する藻類成長プラントの試作機を開発した。これらの技術を統合して、水槽に1リットルあたり300ペクレルの汚染水を3リットルを入れて実験したところ、3日間で9割近い放射性物質を取り除く成果があった。

栽培による土壌中のセシウム除去作業が行われていた。だがヒマワリはかさばるため、作業後の処理が問題となっていた。藻類を用いた放射性物質除去は、増殖速度が速く回収率が良いこと、低コストで藻類を濃縮させられること、作業後の処理が容易なことが利点としてあげられる。今回の研究にあたっては、各分野の垣根を超え、本学の英知を結集させていきたい」と意気込みを話した。

は、土壌に吸着してしまったセシウムをばがす技術の開発が必要だ。また、今後はどのような条件でセシウムがより効率よく吸着できるか、研究を進める予定だ。

本研究のマネージメントを行なっている岩本浩二講師(企画室)は「藻類は多くの可能性を秘めている。研究にあたっては、各分野の垣根を超え、本学の英知を結集させていきたい」と意気込みを話した。



セシウムを逃さないジャングルジム構造

際に、結晶内部の隙間にセシウムイオンがすっぽりと取り込まれるため、再び溶出する危険性が低い。また、このフルシャンブルーの類似物質は安価な元素のみで構成されており、生成も容易だ。同教授は「今後は音波や光などの外部刺激を加えることによって、より結晶化を促す方法を検討し、低濃度の水溶液でも利用できるように目指す」と語った。

す。今後は認知症の予防につながることを期待される。研究成果は米国の科学誌「ニューロバイオロジー・オブ・エイジング」に掲載された。同教授は本学の学生20人と、つくば市内に住む高齢者16人を対象に実験を実施。文字の色と意味が一致しているかを判断するテストを行い、正答率や判断にかかった時間を測定した。テスト後、被験者は10分間ベダルをこぎ、その後再びテストを行った。

染料用いて汚染水処理

セシウムを除去する新手法を、守友教授(数物系)が開発した。染料の一種であるフルシャンブルーの類似物質を利用することで、水溶液中に溶け込んでいるセシウムイオンを取り除くことができる。この手法を

用いて福島第一原発の敷地内にある、高濃度汚染水の処理に活用できる可能性がある。同教授は「フルシャンブルーの類似物質は通常、2価の鉄イオンと3価の鉄イオン、シアノイオンによって構成される物質であり、ジャングルジムのような構造をしている。

同教授は「フルシャンブルーを用いた技術では結晶状態のフルシャンブルーを、セシウムイオン溶液に投入することが主な手法であった。ところが、この手法ではフルシャンブルーの表面のみセシウムイオンが取り込まれるため、再度溶出する恐れがあった。守友教授の開発した手法では、フルシャンブルーの類似物質の原料をセシウム

の1まで低下させるなど、高い効果がみられた。これまでのフルシャンブルーを用いた技術では結晶状態のフルシャンブルーを、セシウムイオン溶液に投入することが主な手法であった。ところが、この手法ではフルシャンブルーの表面のみセシウムイオンが取り込まれるため、再度溶出する恐れがあった。守友教授の開発した手法では、フルシャンブルーの類似物質の原料をセシウム

これまで習慣的な中強度の運動が認知機能を高めることがわかってきたが、短時間の運動でも効果があることが判明したのは世界初。同研究は「たくましい心」を育むスポーツ科学インベーションの一環で、運動を通して脳の発達を自覚させることが、右脳が左脳をバックアップすることを目指す。右脳は左脳をバックアップすることを目指す。右脳は左脳をバックアップすることを目指す。

その結果、自転車こぎの運動の後では、脳の活動が活性化することがわかった。学生では判断速度が平均50%向上し、左脳の一部が活性化していることが明らかになった。一方、高齢者では判断速度が平均16%向上し、右脳が活性化。左脳の機能をバックアップするからと、右脳にある右前頭極の活動が盛んになることを明らかにした。

竜巻、なぜ起きた

今日6日、つくば市付近に甚大な被害をおこした突風について気象庁は翌日7日、竜巻であることを正式に発表した。被害の幅が約500m、長さは約15kmと推定され、国内史上最大級となった。なぜ、竜巻は突如起きたのか。そのメカニズムを探る。(梅野まさき「社会学類」)

巨大積乱雲が原因

竜巻は主に寒冷前線の通過時に発生する。特に春や夏の季節の変わり目には、冷たく乾燥した空気と暖かく湿った空気が衝突し、発生しやすくなる。同気象台によると、6日のつくば市付近の地表気温は平年を4.8度上回る25.6度。しかし上空の寒気は、約マイナス19度で、その差は44.4度だった。暖かい空気は上へ、冷たい空気は下に向かう性質がある。このような寒暖差の大きい状態だと、激しい対流現象がおこり、大気の状態が非常に不安定になる。このため、積乱雲(入道雲)が発達して竜巻が発生したと考えられる。同気象台のレーダーによ

ると、現場付近では13時頃、積乱雲は20km程度の大きさまで発達。同時にゴルフボールほどの大きさのひょうが落ちてきたという。湿った暖かい空気が上昇すると凝結して水となり、水滴がさらに上昇すると上空の気温の低いところで水の粒となる。このように積乱雲の中で上昇と落下を繰り返すために、今後気

返し、水の粒は成長する。ある程度の大きさになるとひょうとなって落下する。積乱雲は40分ほどつくば市付近に停滞し、その後は北東に進み、夕方頃には海上にはなれた。

この日は西日本から東北の広い範囲で竜巻などを引き起こす積乱雲が発生しており、気象庁は東海、関東、東北を対象に相次いで竜巻注意情報を発表。茨城県では12時38分に発表して

しかし、平成23年の竜巻予報の精度では対応できない。現在狭い範囲の気象変化にも対応できる装置の開発も進められている。これが実用化できるようになれば、竜巻発生時の正確な予報も行えるようになるかもしれない。

津波避難経路を公開

海洋生物に関する研究や教育を行う本学の津波避難実験センター(静岡県下田市)で4月13日、新設した津波避難経路の公開された。近隣の住民や下田市の関係者など約60人が集まり、実際に避難路を歩いた。

津波避難経路の整備は、近未来の発生が予測される東海地震などに備えるために稲葉一男センター長(教授・生環系)が大学本部に提案。市との話し合いを経て整備を進め、昨年度末に完成した。下田市役所は、当初海抜2mの場所への移転を計画していたが、避難路の津波対策の参考とな

新型は腰補助モデル

介護の負担を軽減

山形大教授(シス情系)が4月5日に新潟県県庁で世界に先駆けて新型ロボットスーツを初披露した。発表されたのはHALの腰補助モデル。HALはも軽々と持ち上げられ、腰への負担を軽減できる。被災地の重作業軽減を目指す。今後は認知症の予防につながることを期待される。研究成果は米国の科学誌「ニューロバイオロジー・オブ・エイジング」に掲載された。同教授は本学の学生20人と、つくば市内に住む高齢者16人を対象に実験を実施。文字の色と意味が一致しているかを判断するテストを行い、正答率や判断にかかった時間を測定した。テスト後、被験者は10分間ベダルをこぎ、その後再びテストを行った。

的とした災害用や、運動機能が低下した人や高齢者の動作支援・訓練を目的とした福祉用は既に実用化されている。今回披露された新たな腰補助モデルも、6月から同県内に試験的に導入され、実用化に向けた実証試験が行われる。この新型HALの導入で、介護をする側の肉体的負担を軽減できると期待されている。

山形教授は今後の展望として「国際的な拠点を作りたい。来たるべき社会に向けてテクノロジーの進化と人材育成も視野に入れなければならない。未来を開拓する拠点として日本で、出来ればつくばで可能な限りいいものを作り出していききたい」と熱く語った。



右脳は左脳をバックアップすることを目指す。右脳は左脳をバックアップすることを目指す。右脳は左脳をバックアップすることを目指す。

竜巻被害の北条で復興活動

竜巻で大きな被害を受けた北条地区。同地区商店街の特産品「北条米スクリーム」の企画を手掛けるなど街おこしに携わってきた学生団体「アムチュアレーブル」(通称「アムチュアレーブル」)のメンバーとして活動する本紙記者が、竜巻翌日から3日間の復興活動を通じて見た北条の現状を報告する。(長島一真=人文系)

竜巻によりガラスや塀が破損し、庭園が崩れ、埋め戻された「旧矢中邸(同地区東部)」の有形登録文化財である同邸宅は、本学生と卒業生が運営するNPO法人「矢中の杜」の守り人として「チームじゃっぺ」が保存活動やイベントを行っていた古民家だ。

竜巻の翌日、両団体のメンバーは住民と共に、飛来したガラスや瓦を処分し、邸宅内を掃除した。NPOの運営に携わる本学OGの井上美菜子さん(平成22年世界遺産修了)は「これまで街おこしに深く携わってきただけに(被害を受けた)北条を見るのはつらい」と肩を落とした。

竜巻の猛威「髪に無数のガラス片」

た」と話し、一緒にいた女性は「けがはなかったが、髪に無数のガラス片が刺さっていた」と竜巻の凄まじさを語った。

だが竜巻から3日が経ち、状況は変わった。ほとんどの地域で電気が回復。住民が復旧を助け合い、励まし合う姿もみられた。

記者は9日午前、商店街にある大正時代に建てられた元呉服店の店蔵の復旧作業を手伝った。住民の女性は「こんなに壊れてしまったのは取り返すしかない。ずっと昔から残っていたのに」と悲しみを語った。しかし午後、商店街が被害を受けたこの店蔵を保存・活用するという計画を聞いた女性は、記者の手をとり「おかげさまで」と涙を浮かべた。

中継役となるボランティアセンターは、住民のニーズを適切に汲み上げられず、膨大な数の登録者に対して効果的な派遣が行えていない。手伝いを依頼する窓口の連絡先を知らない住民が多いため現状には疑問を感じた。

また直接北条を訪れるボランティアも増えたが、掃除に忙殺されている最中、唐突に「何か困っていることは」と尋ねられ困惑する住民の姿もみられた。

住民とのつながりや土地勘が乏しい状態で飛び込んで、効果的な援助はできない。まずは現地とつながりのある人や団体のネットワークを通じ、緊密に連携をとって行動をすべきだ。被災地の助けになりたいという善意を無駄にしないためにも、ボランティアに求められるのは、ニーズに合った冷静な行動だ。

NPO法人「矢中の杜の守り人」と「チームじゃっぺ」は、現地の様子や作業状況をツ



住民とNPO、学生が復旧作業にあたった

第38回やどかり祭

5月25、26日に開催

会場は平砂宿舎

第38回やどかり祭(宿舎)の企画では、昨年度も実施され、男の中の男を競う「漢祭り」、浴衣美女NO.1を決める「ゆかたコンテスト」、各団体ごとの御興のパフォーマンスなどが行われる。また、今年からは、のど自慢大会の「やどかり祭」などが開催される。

当日は、各団体による模擬店の出店他、本学の音楽系サークルによる野外ライブも行われる。実行委員

第60回 バイオeカフェ

筋肉のしくみを語る

筋肉はなぜつくか 最新の研究紹介も

生物学類と生命環境科学 研究科が主催するバイオe カフェが4月17日、総合交流会館の多目的ホールで開催された。第60回の今回は武政准准教授(体育系)による「マッチョの分子生理学」がテーマ。マッチョの筋肉が強い理由や、トレーニングによって筋肉が強化される過程について講演が行われた。トレーニングによって筋肉が破壊され、回復する時に元の状態よりも強化される。しかし筋肉が回復するには時間がかか

るため、回復前にトレーニングを再開すると、オーバートレーニングになる。筋肉を適度に休ませるためには、トレーニングメニューを分割し、その日に鍛える筋肉を交代するのが有効だ。第3部では筋肉に関する最新の研究に迫った。ある遺伝子进行操作したマウスは、ひと目でわかるほど筋肉質になるという例を紹介。遺伝子の欠損が原因で、人間の赤ん坊や、食肉牛でも筋肉が異常に多い例がある。

武政准教授は「筋肉は本質的に大飯喰らいの組織で、生命体としてはエゴでないと考えられる。この遺伝子は筋肉が付き過ぎないように抑制するのではないかと

言われている」と説明した。最後の質疑応答ではさまざまな質問が飛んだ。「自分の研究に関係があり、興味を持って来た。内容はもちろん、先生のユーモアのある話し方も面白かった」という声が上がったが、武政准教授は「アマチュアレベルのトレーニングで、女性が男性らしい体になることはない」と答えた。また子どもがトレーニングするデメリットも指摘された。

本学からこの質問には成長期にトレーニングをするのは骨の発達が阻害される」と、骨の発達が阻害される」と



筋肉について語る武政准教授



子どもが鍛えすぎるとは良くない」と注意した。来場した大学院生からは「自分の研究に関係があり、興味を持って来た。内容はもちろん、先生のユーモアのある話し方も面白かった」という声が上がったが、武政准教授は「アマチュアレベルのトレーニングで、女性が男性らしい体になることはない」と答えた。また子どもがトレーニングするデメリットも指摘された。

本学からこの質問には成長期にトレーニングをするのは骨の発達が阻害される」と、骨の発達が阻害される」と

子どもが鍛えすぎるとは良くない」と注意した。来場した大学院生からは「自分の研究に関係があり、興味を持って来た。内容はもちろん、先生のユーモアのある話し方も面白かった」という声が上がったが、武政准教授は「アマチュアレベルのトレーニングで、女性が男性らしい体になることはない」と答えた。また子どもがトレーニングするデメリットも指摘された。

ルービックキューブ同好会

「ルービックキューブ同好会」は、競技としての「ルービックキューブ」に取り組む。同団体が設立

ルービックキューブの世界

ルービックキューブの配置の組み合わせは約4300億通り。京は1兆の1万倍だ。その数には及ばないが、ルービックキューブは多くのお笑い、思い出を作る。無限の可能性が詰まった立方体の世界へ、飛び込むのはいかがだろうか。(二宮健太=社会学類)

ルービックキューブの世界

ルービックキューブの配置の組み合わせは約4300億通り。京は1兆の1万倍だ。その数には及ばないが、ルービックキューブは多くのお笑い、思い出を作る。無限の可能性が詰まった立方体の世界へ、飛び込むのはいかがだろうか。(二宮健太=社会学類)



奥深き立方体の世界

ルービックキューブの世界

ルービックキューブの配置の組み合わせは約4300億通り。京は1兆の1万倍だ。その数には及ばないが、ルービックキューブは多くのお笑い、思い出を作る。無限の可能性が詰まった立方体の世界へ、飛び込むのはいかがだろうか。(二宮健太=社会学類)



サラマンカ大学 (スペイン)

唐澤護

Hola! (オー!)
僕は、昨年の8月からスペインのサラマンカという街に1年間の交換留学で来ています。サラマンカの旧市街は、世界遺産に登録されており、まさに世界遺産の中で暮らしているわけです!

帰った際に、言葉が全く通じず、現地の人と交流ができずに悔しい思いをしたこと。大学の授業はスペイン人と共に受けるので、正直かなり大変です。しかし、授業の雰囲気は日本と異なり、教授と生徒のディスカッション形式が多く、学生の意識も高いので、とても刺激になります。

こちらは来てから文化の違いを感じることは、あじさつ(アジサツ)の時にほおにキスすることから始まり、食事の時間や回数の違いなど、挙げればきりがありませんが、最も顕著なものに、キリスト教への情熱があると思います。

先月、スペインのイスター休暇にあたるセマナ・サンタを利用して、スペイン南部アンダルシア地方の最南端部にほど近い、ピカン生誕の地でもあるマラガという街に行ってきました。宗教行事の盛り上がりは、スペインの中でも南部に行くほど高くなる傾向があり、マラガとセビージャのセマナ・サンタは特に有名です。



友人とマラガの宗教行事での1枚

期間中は昼過ぎから夜中の3時頃まで、宗教的な行列が街中を練り歩きます。独特の衣装に身を包み、Paso (パソ) と呼ばれる山車を担いだ人たちが、楽団の音楽のリズムに合わせて歩みを進めます。驚くべきは見物人の数です。行列が通る道の両側には常に人だかりができ、最前列には予約席まで設けられていて、見物人の中には行列

に感動して思わず涙を流す人もちらほら見受けられました。なんとこのセマナ・サンタの間に10万人の人がマラガを訪れるそうです。日本とスペインの信仰心の違いをしみじみ実感した瞬間でした。

こんなふうに五感で感じたことを経験に変えていく。そして自分の中にとりこみ、もともとこの知識と照らし合わせる。これこそが「比較文化」の神髄なのではないでしょうか。筑波大生は一般的にまじめなので、読書家が多いと思います。地域研究や外国に興味があるなら、本を読むだけでは自分の五感を体験をしてみることを強くお勧めします。(比文3年)

Kids, University 科学に触れながら学ぶ

地域の子供たちを本学に招待し、最先端の科学や研究に触れてもらうイベント「Kids, University」が、4月21日に行われた。多くの親子連れが本学を訪れ、学問の世界に目を輝かせていた。(関連写真は12面)

薬について知る

大学の講義を小学生向けに行う体験授業「元気を守るクソリの科学」では、三輪佳宏講師(医学部)が身近な薬の仕組みについて分かりやすく説明した。講義は「副作用の中には役に立つものがあるか」「わざと効き目のないくすりをお飲むことがあるか」といったクイズから始まり、その答えを紹介しながら授業が進められた。「自分の身近なところにあるクソリを答え



白衣をまとい、興味津々で顕微鏡をのぞき込む

かが分かったと話した。三輪講師は「たくさん手が挙がる積極性は大学生には無いものだった。小学生が薬学に興味を持って、日本の薬学の今後を支えてくれるきっかけになれば」と話した。

研究者気分味わう

総合研究棟A107で「科学あそびラボ」が開催された。光や種、日食の不思議コーナーに分けられ、スタッフを中心とした親子連れが訪れた。種の仕組みでは紙で種の簡易模型を作って種が飛ばされる様子を学び、顕微鏡で実物を観察した。希望者には白衣が貸し出され、子どもたちは研究者気分を味わった。

華鏡をのぞいた子どもたちは、感嘆の声をあげた。また、親の疑問にスタッフが一筆に説明する姿も見られ、親子の双方が科学の知識を深めた。

海の生物に触れる

総合研究棟A108で開催された。会場では、貝やヒトデが入った水槽が並べられたほか、中央の小さなプールにはエビやナマコ、小型のサメなどが泳いでおり、参加者が触れるようになっていた。プールでは多くの子どもたちが思い思い生き物に触れたり、興味深そうに眺めたりしていた。参加者の疑問にはスタッフが丁寧に答えていた。

異国で触れる比較文化の神髄

宇宙について気軽に討論

第1回Astro Cafeが、5月1日に3A棟207で行われた。学生生活動団体「Tsukuba Space Cluster (TSC)」によって、お茶やお菓子を囲んで気軽に科学の話題について話し

合サイエンス・カフェの宇宙版を目指して開催された。当日は学内外から約100名が集まり、和やかな雰囲気の中で宇宙に関するディスカッションなどを楽しんだ。TSCは昨年9月に発足し、宇宙に関するプレゼンテーションやトークなど、宇宙の知識を共有する活動を行う団体だ。

トークの後は、参加者が5〜8人で班を組み、「衛星ミッションを考えてみよう」と題してディスカッションを行った。参加者は現在稼働している人工衛星をヒントに、市場対象やセールのポイントが異なる新たな衛星の役割についてアイデアを出し合った。

Google Earthの宇宙版として、惑星の様子を見ることができ「Google Universe」や、大きなディスプレイを設置して広告塔として利用する「超ド級星空間用紙」などさまざまな案が発表され、参加者からは「よめや笑い」が起きた。

参加した張野荷さん(情報科2年)は、「宇宙や星について興味があり、宇宙関

第1回 Astro Cafe 新たな人工衛星を提案



宇宙に思いを馳せてアイデアを出しあう

当日は学内外から約100名が集まり、和やかな雰囲気の中で宇宙に関するディスカッションなどを楽しんだ。TSCは昨年9月に発足し、宇宙に関するプレゼンテーションやトークなど、宇宙の知識を共有する活動を行う団体だ。

参加した張野荷さん(情報科2年)は、「宇宙や星について興味があり、宇宙関

つくばピア 教育活動評価され表彰

中学校や高校に赴き、生徒たちと一緒に「性」について考える団体「つくばピア」に、つくば保健所(つくば市松代)と管総保健所(常総市水海道)から感謝状が贈られた。

ケーション(同世代間教育)のことで、性や自殺といった思春期に直面しやすい問題を、ゲームやグループワークを通して生徒と考えるという教育方法だ。同団体は自分の言葉で伝えたり人の言葉を聞いたりす

代表の岩崎由香里さん(看護3年)は、「周りの人がここまで支援してくれているというのを、今回の表彰で実感できた。誰にも相談できずに悩んでいる生徒と一緒に、いろいろな事を話して不安を軽減していきたい」と話した。

貴重品など盗難 施錠の意識を

本学で財布や自転車の盗難が発生し、学生生活課では注意を呼び掛けている。4月12日12時30分ごろ、第三エリアフードコートで、本学生のカバンから財布が盗まれたことから、同課に届け出た。同課によると、学生は座席にカバンを置いておき、食後終わった食器を片付けるため、席を離れた間に被害に遭ったという。また、4月27日20時ごろ、平砂宿舎に住んでい

また、4月16日朝、春日キャンパスに本学生が駐車していた自転車に盗まれた。前日の夜に自転車置き場を覗いたまま帰宅し、翌朝盗難に気づいたという。学生生活課では「宿舎の部屋や自転車の鍵をかけたまま、食後終わった食器を片付けるため、席を離れた間に被害に遭ったという。また、4月27日20時ごろ、平砂宿舎に住んでい

反射鏡

新たな出会い求め「食わず嫌い」やめる 原江梨花(社会学3年)

あるし、私も高校生の時、「天学では色々なタイプの人と友達になって視野を広げたい」と思っていた。しかし、実際に入学してみると、「あの人はすごく真面目そう」「あの人は派手すぎる」と、見た目で勝手に人を判断し、ラベルを貼りに自分から積極的に関わろうとはしなかった。私は人間関係においても「食わず嫌い」を始めたのだ。だが、冷やし中華と同じで、食べなくても(関わらなくても)生きていけるとその頃の私は信じていたし、実際には似たバックグラウンドや思想を持った人たちが、安心感や親密感をすぐに抱くことができた。

ため、そのことを問題視したことはなかった。そのため私は大学に入ってからの2年間、自分が無理せず付き合える人や自分と合う人を探し、居場所を確保することで平穏な日々を過ごしていた。しかし2年が終わるころ、今までの人間関係を手放さざるをえない出来事が起こり、私は孤独になった。もちろん親友が続いた人もいたが、今まで構築してきた安心安全な居場所をなくしてしまっただけ。そして、他人の侵入によって自分が否定され、揺らぐことになった。だからそのリスクが低い人(自分と似ている人)を選び、安心していいのだ。そう考えると、あの時私に接近してきた彼女たちも、同じような抵抗を抱いていたはずである。だが、その彼女たちの勇気がなければ、私は今でも自分の殻から抜け出せずにいたであろう。そして、彼女たちと関わっていくことは、私の視野を確実に広げ、いつもと変わらない日々を方々へ送ることを意味している。

「食わず嫌い」やめる 原江梨花(社会学3年) 嫌いなものを食べてみる、という行為は、私にとって大きな勇気だった。今までの人間関係を手放さざるをえない出来事が起こり、私は孤独になった。もちろん親友が続いた人もいたが、今まで構築してきた安心安全な居場所をなくしてしまっただけ。そして、他人の侵入によって自分が否定され、揺らぐことになった。だからそのリスクが低い人(自分と似ている人)を選び、安心していいのだ。そう考えると、あの時私に接近してきた彼女たちも、同じような抵抗を抱いていたはずである。だが、その彼女たちの勇気がなければ、私は今でも自分の殻から抜け出せずにいたであろう。そして、彼女たちと関わっていくことは、私の視野を確実に広げ、いつもと変わらない日々を方々へ送ることを意味している。

筑波時評

2012年5月22日、いよいよスカイツリーと東京ソラマチ、いわゆるスカイツリータウンが開業する。東武鉄道グループが中心に手がけた業種、橋上地区開発事業であり、暗いニュースの連続、我が国において広く注目される新たな拠点開発である。

東京スカイツリー開業 地方観光地への影響も

言わずもがなであるが、高さ634mを誇るスカイツリーは我が国で最も高い建造物である。その工法にはリフトアップ工法(あらかじめ地上などで組み立て、クレーンで吊り上げて設置する)と、3・11の震災でも作

業には大きな支障がなかったことが、それを証明している。このスカイツリーは、近隣に隅田川、浅草といった東京の観光名所に隣接している。これらを通る観光客は今後

増加と、それによりも消費増は、この業種橋上地区にとって大きな効果となる。しかし、日本全体で俯瞰してみると、観光客の目的地が変わっただけであり、それは消費の場所が変わったに過

フルに色付けた。「食わず嫌い」していた世界がこんなに美味いとは思いませんでした。【冷やし中華】を食べさせてみる。今の私は食べることができるのなら、私は世間で「食わず嫌い」を食

今月のテーマ 「今年こそ」



私だけの「今年こそ」



岡本直久

新たな観光対象が生まれる。これによって、地方観光地にとっては消費を奪われる意味で、脅威であることを意味する。首都圏のみの客の取り合いである大きな問題で、スカイツリータウンの賑わいとともに、地方観光地の健康を祈らざるにはいられない。

おかもと・なおひる 1966年生まれ。システム情報系准教授。専門は土木計画、観光計画。東京工業大学大学院理工学研究科土木工学専攻博士課程中途退学。財団法人運輸政策研究機構運輸政策研究所研究員などを歴任。2007年より現職。

4年目の決意 経験の集大成に

坂東隆宏(心理学4年)

新生活はそうそう大学生に慣れてきた頃だろうか。早いものでもう5月。私は、ついに4度目の5月を迎えた。大学生活最後の年となる今年、勉強・課外活動ともに集大成となるような年になりたい。勉学においては、卒業研

手紙

カンロ株式会社

この原稿は5月発行の新聞に掲載される予定と聞いている。5月の筑波、目を凝らすと、深い緑に覆われたキャンパスがすぐに思い浮かぶ。今頃、新1年生はそのキャンパスの中で、これからの新生活を思い、期待と希望に胸をふくらませているのではないかな。

14年前の私がそうだった。当時第一志望だった筑波大学に進学した私は、ただただ新生活に期待ばかりしていたと思

研究をこなすことが第一目標である。先日、初めての研究室のゼミがあった。洋書を読んでいくというゼミなのだが、日本語に訳すことが難しく苦勞した。この先ついていけるかなんか不安だが、かならず乗り越えて自分自身で満足いく卒業研究を行いたい。

課外活動では、つながりを作っていく。私はずいぶん前からつづけるのが好きだ。学園祭実行委員会を3年間務め、今年行われたふり上げにも関わった。イベントを企画するのは大変だが、それ以上に人と人の絆を深める機会を作ること

高校時代は中よりの成績を取って、部活でも活躍していた私は、根拠もなく、自分は大学生活も自信を持ってやっていけると思っていた。だが、すぐに自分の力の限界を思い知ることになる。高校に比べて次元が異なる学校の授業には、すぐについていけない。部活動でも先輩方から叱られてばかり。ついでに気になったクラスメイトの女子に声をかけても相手にされず……これは全くもって余談だが、とにかく、私は1年生の2学期が終わるより早く、自分が大学でもやっていけるという自信は全く根拠のないものであったことを知る。自分の力のなさを恨み、嘆き、一時期は学校そのものから足を遠く離れた。日がな一日、一矢報復を誓っていた。だが、実

宿舎に立つ一本の木をベッドに横になりながら宿舎の窓からぼーっと眺める、そんな日々が続いた。完全に自分に自信を失った私はこの頃、「20歳過ぎればたまたま」という格言を痛いほど味わっていた。

結局その思いは2年生になっても3年生になっても、4年生になっても……自分の学生生活はうまくいかないと失敗したと、そんなことを繰り返したと思わずにいられない。もっと学校も部活もうまくやれたんじゃないか、という後悔を抱えながら、私は大学を卒業した。

と、ここまで書いて私の学生時代は思い出したくないほど嫌な思い出しかなく、今なお私の心を引っ張っていると思われながらも、実は

今学生の君たちは、学校やサークルなど、いろいろなことで悩んだり悔やんだりしていると思う。そんな君たちには、声を大にして「それでいいぞー」と言いたい。そうして悩んだ経験が、君という人間をステップアップさせるはずだから。逆に、そうした悩みを乗り越え、君という人間が成長しない。「チャレンジしない人間になる」ということも、併せて言いたい。何か新しいことに挑戦する。一生懸命頑張る。それが結果としてうまくいけばそれを自信にすればいいし、うまくいかなかったら一杯後悔すればいい。後悔したとしても、一生懸命やったことは絶対に無駄にならない。大学4年間とは、そうした回りの道を許される時間でもあると思う。

もしいつこの原稿を読んで少しでも気持ちがワクワクしたら、勉強でもサークルでもバイトでも、何か新しいことを始めてみよう！ きっと新しい世界が、新しい友人が、君を待っているだろう。(平成14年度社工卒)

新人記者募集

“今”を伝えるのは、あなた

毎週月曜日18時30分

共同研究棟 A104
TEL:029(853)6699
MAIL:shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp
HP:http://utshinbun.web.fc2.com/

次号のテーマは 私だけの記念日 ですよ

連絡先
TEL 029・853・6699
e-mail shinbun@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

悩みが君を大きく育てる

創刊から300号

筑波大学を

振り返る

1974年に創刊された筑波大学新聞は、今号で300号を迎える。創刊以来、本学の「今」を追いかけ、紹介し、時には疑問を投げかける役割を果たしてきた。新たな節目を迎えた今号では、本紙に関わってきた人々の声を紹介する。(中島佳奈、長島一真、松本果奈、日本文学類)

創刊当時を懐かしむ安藤氏



記念すべき初代の顧問を務めたのは、鈴木博雄名誉教授。東京教育大学(以下教育大)でも教鞭をふるい、同大学の移転後は本学へと活躍の場を移した。開学して間もない本学を作り上げ、発展させた中心人物の一人である。学生運動以降の大学教育に携わった現状を聞いた。

本学移転の過渡期を思い返す



38年前振り返って

創刊時 顧問

鈴木 博雄
名誉教授

「創刊当時の大学新聞はどのようなものでしたか。当初は新聞部などというものもありませんでした。新聞づくりをしようと学生に記事を書いてもらいました。はじめは、全て手探りの状態でした。」

「新しい大学を創る」

「学生運動が盛んな時代でしたが、教育大での授業はいかがでしたか。」

「学生運動が激しかったころは、全く授業を行えませんでした。朝、学校に行くのが、教授が学生たちにイデオロギーについて話聞されたり、構内に教授が入れないこともありました。」

「しかし1972年の連合赤軍事件が終わってからは、大学紛争の問題は沈静化しましたね。」

「本学が開学してからは、そのような学生たちに変化がありましたか。」

創刊当初を語る

「創刊当時の学生の雰囲気はどうかでしたか。」

「筑波大学として開学した直後、キャンパスにいた学生は1000人弱の1年生だけでした。ほとんどが宿舍や下宿で共同生活を送るため、学生同士の距離が近

くのかな雰囲気だったと覚えていました。」

「当時、大学側は学生運動を警戒した対策を行ったと聞きました。学生はこのことについてどう考えていましたか。」

「私たちの世代は学生運動の中心となった世代の後輩に当たりますが、私たちの大部分は先輩たちの学生運動を比較的冷めた目で見ていました。しかし大学側は学生がこのような動きを起すことを未然に防ぐとして、学生を恐れ過度に身構えていたように思えます。」

「そのような状況の中で、大学新聞はどのような常陽新聞に紙面割り(レイアウト)をした状態で渡り、常陽新聞が鉛活版を組んで印刷したサンプルを後日確認します。その後、細かい修正を部員が行い、やっと紙面の印刷に至るといつか読んでもらっていました。」

「読者の反応はいかがでしたか。」

「学生には宿舍の各部屋に手渡して配布していたので、制作者と読者の顔が見える関係でした。「あの記事が面白かった」と、つまらなさを発信できる新聞を目指したいと考えていました。」

昭和53年度人文卒

安藤 弘一 氏

日通総合研究所勤務

「創刊当時、どのような意見が発信できる新聞を」

「創刊当時、どのような意見が発信できる新聞を」

「創刊の辞」(鈴木博雄) 『買きたい批判精神』、『パランスのとれた新聞づくり』

創刊の辞 鈴木博雄

「買きたい批判精神」、『パランスのとれた新聞づくり』

大学文化の創造

「その担い手として」

「その担い手として」

「創刊の辞」(鈴木博雄) 『買きたい批判精神』、『パランスのとれた新聞づくり』

本紙記者と対談

「講演日より」(レポーター・安藤弘一) 東京工業大名誉教授の講演会の紹介記事。150名以上の学生が聞き入ったという。

講演だ

「講演日より」(レポーター・安藤弘一) 東京工業大名誉教授の講演会の紹介記事。150名以上の学生が聞き入ったという。

愛すべき数学者 斎藤

歴史に触れる 本学の

2000号の節目

現在、日本弁護士連合会事務所で働く大塚智一氏(平成14年度社卒)は創刊2000号当時の編集に携わった。当時の状況について、語ってもらった。

私が大学新聞の編集部長だったのは、およそ10年前、1999年から2002年までです。当時つくばエクスプレスは開業しておらず、「陸の孤島」の呼び名がまだ実感を持って使われていました。学生のほとんどは宿舎かアパート暮らしのため、終電や終バスという感覚はなく、大学新聞でも、夜中に編集室に現れて原稿を作成し、明け方に帰るとい生活リズムの部員が少なからずいました。

アナログからデジタルへ 大学新聞らしさを求める

行っていたことがその理由だと思われまふ。私自身とりわけ思い出深いのは、2000年の白川英樹先生のノーベル化学賞受賞です。白川先生はその年の3月まで筑波大の教授を務めており、受賞時は名義教授でした。

その頃は日本中いたる分野でIT化が進められ「ITバブル」と呼ばれた時期ですが、大学新聞でもフィ

に行き、製版された記事や写真を手作業で白紙に貼り付けていたものが、全てパソコン上でできるようになりました。

当時の新聞を改めて読み返すと、学内のニュースを伝えることはもちろんのこと、学外の出来事を、いか

に、2000年の白川英樹先生のノーベル化学賞受賞です。白川先生はその年の3月まで筑波大の教授を務めており、受賞時は名義教授でした。

tDNAが変異すると、運動能力や知能の低下などが起きることが分かっていた。

35年前、埼玉県立がんセンター(伊奈町)の研究員として勤めていた林教授は、当時からがんとmtDNAとの関係について研究。以後もこの研

DNA変異が転移に繋がる 活性酸素の抑制で転移を防止

究を続けたいと思ひ、19年前、本学に着任した。

長い研究の末、2008年、ようやくがんの転移とmtDNAの変異の因果関係を発見した。その

研究手法は独自性にあふれたものであった。がん細胞には転移のよみくら

ながん細胞(高転移型)と低転移型(低転移型)がある。そして、これらのがん細胞の中、mtDNAだけを入れ替えると、高転移だった細胞の転移がみられなくなった。これでmtDNAの変異が、がんの転移に関わっていることが分かった。

さらに、変異したmtDNAのうち、がんの転移を誘発するのは「活性酸素」を出すものに限られるという成果も得た。活性酸素とは、呼吸によって体内に入った酸素が、電子を失うなどして不安

定になったもので、時々として体に書及ぼす。これらの経緯は同年イギリスの権威ある科学雑誌「サイエンス」にも掲載され、その後、活性酸素の生成を抑える薬剤をマウスに投与すると、実際にがんの転移が抑えられることも実証された。

現在、教授はがんの転移を誘発するmtDNAを持つマウスの育成に着手。最近数例ながら世界で初めてマウスの育成に成功した。

今後はこれらのさまざまながん転移を誘発するmtDNAを持つマウ

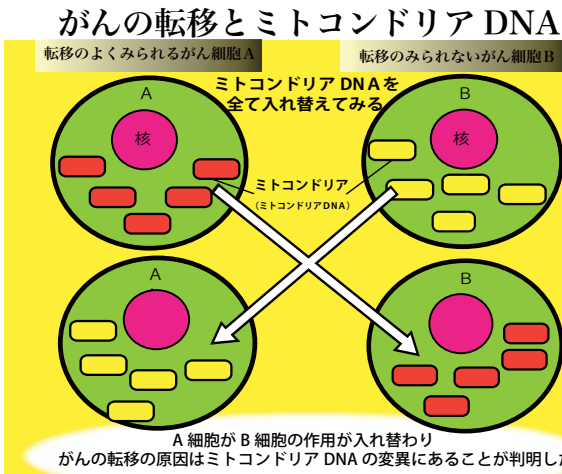
を自分へ選べる機会はないが、本学に取らなければならない

アする時もあり、私はハイ等に行かなくてもその料理が非常に美味しいということが分かる。未成年とも、27歳の「おっさん」とも一緒に食事をしたり、誕生日を祝ったり、ゲームやムービーナ

が、この三角形の頂点は「成績」と「友達」と「睡眠」である。ポイントが2つしか選べないという状況だ(学生である方はずっと分かってこれると思う)。今学期、私は日本語のJ900レベル

宿題は週に15時間くらいから、7月に行われる日本語能力試験の勉強をする時間もありない。人間はロボットではないので、最近ストレスたまってしまったあとに思う時もある。しかし、日本にいる間にできるだけ多くのことをやりたいと思っている。「あと一学期だけでいいよ」と毎日自身に言う。このような複雑な気分であと少しだけ頑張り、ラトビアに帰る前に、皆としっかりと夏を楽しみたいと思っている。

(フタバ・比文3年)



がんの転移とミトコンドリアDNA

学部2年生の時に、私は日本に1年留学することになった。筑波大学に

の筑波大学に留学する前には一度もなかった。そのうえ、留学生センターで受講できる日本語のクラスは一日に何個かあり、中級のレベルだと3つくらいから好きな時間帯を選び、授業を受けることができる。それはラトビア大学で日本語を勉強している人の数が筑波大学留学生センターよりずっと少ないからである

は一つの大きなキャンパスになっており、毎日多くの学生に会えるのでここにきてから私はさまざまな国から来た人に会えて、まるで世界一周旅行したようだ。自分の国の料理を作って皆でシェ

イトをしたりし、毎日楽しく過ごしている。旅行までも一緒にするのが普通である。

大学生生活は非常に楽しいが、やはり不安がないとは言えない。大学生の三角形というものがあ

宿題は週に15時間くらいから、7月に行われる日本語能力試験の勉強をする時間もありない。人間はロボットではないので、最近ストレスたまってしまったあとに思う時もある。しかし、日本にいる間にできるだけ多くのことをやりたいと思っている。「あと一学期だけでいいよ」と毎日自身に言う。このような複雑な気分であと少しだけ頑張り、ラトビアに帰る前に、皆としっかりと夏を楽しみたいと思っている。

食の中華定食だった話があり、緊張しながらのインタビューをする中で、今、その時の大学新聞が私の手元にあります。記事には、研究に行き詰まったときに松美池でボードウォッチングをしていたという話や、普段の昼食は二

による今後の研究により、医療の常識が大きく変わる日も近いかもしれない。(加藤茂行II地球学類)

タイ本場の持術吸収「Who's who」

現在も本紙のカラー一面を飾る困み記事。原稿や写真などの編集作業でパソコンの使用が始まった。

昨日、紙媒体のデジタル化の勢いが増している。昔の文獻も、週刊で発行される漫画も、指一本動かせばどこにいても読めるようになった。当然、新聞も例外ではない。40年前には学生の思想の拠り所であった筑波大学新聞。だが現在は、部員を確保できず休刊し、廃部してしまっているところもある。

本紙もその例外にみられず、数年前には部員が減り、発行が危ぶまれたこともある。多くの支えによってそのような危機を乗り越えた今、部員は16人に増え、毎号読者の手元に送り続けることが出来る喜

好であることが分かる。成虫は4月中旬に現れ、晴れた日の昼には、沢を悠々とパトロールする雄や、産卵している雌を観察できる。その勇姿を見て、古に思い馳せるのも一興であろう。(写真・文II武藤将道生物2年、野生動物研究会)



留学生の目

「生きていく化石」として名高いムカシトンボは河川の源流部に棲息し、幼虫生活は7年に及ぶ。このためムカシトンボが生きる環境は極めて良

好であることが分かる。成虫は4月中旬に現れ、晴れた日の昼には、沢を悠々とパトロールする雄や、産卵している雌を観察できる。その勇姿を見て、古に思い馳せるのも一興であろう。(写真・文II武藤将道生物2年、野生動物研究会)

好であることが分かる。成虫は4月中旬に現れ、晴れた日の昼には、沢を悠々とパトロールする雄や、産卵している雌を観察できる。その勇姿を見て、古に思い馳せるのも一興であろう。(写真・文II武藤将道生物2年、野生動物研究会)

好であることが分かる。成虫は4月中旬に現れ、晴れた日の昼には、沢を悠々とパトロールする雄や、産卵している雌を観察できる。その勇姿を見て、古に思い馳せるのも一興であろう。(写真・文II武藤将道生物2年、野生動物研究会)

勉強も友人関係も充実

が、この三角形の頂点は「成績」と「友達」と「睡眠」である。ポイントが2つしか選べないという状況だ(学生である方はずっと分かってこれると思う)。今学期、私は日本語のJ900レベル

宿題は週に15時間くらいから、7月に行われる日本語能力試験の勉強をする時間もありない。人間はロボットではないので、最近ストレスたまってしまったあとに思う時もある。しかし、日本にいる間にできるだけ多くのことをやりたいと思っている。「あと一学期だけでいいよ」と毎日自身に言う。このような複雑な気分であと少しだけ頑張り、ラトビアに帰る前に、皆としっかりと夏を楽しみたいと思っている。

宿題は週に15時間くらいから、7月に行われる日本語能力試験の勉強をする時間もありない。人間はロボットではないので、最近ストレスたまってしまったあとに思う時もある。しかし、日本にいる間にできるだけ多くのことをやりたいと思っている。「あと一学期だけでいいよ」と毎日自身に言う。このような複雑な気分であと少しだけ頑張り、ラトビアに帰る前に、皆としっかりと夏を楽しみたいと思っている。

宿題は週に15時間くらいから、7月に行われる日本語能力試験の勉強をする時間もありない。人間はロボットではないので、最近ストレスたまってしまったあとに思う時もある。しかし、日本にいる間にできるだけ多くのことをやりたいと思っている。「あと一学期だけでいいよ」と毎日自身に言う。このような複雑な気分であと少しだけ頑張り、ラトビアに帰る前に、皆としっかりと夏を楽しみたいと思っている。

宿題は週に15時間くらいから、7月に行われる日本語能力試験の勉強をする時間もありない。人間はロボットではないので、最近ストレスたまってしまったあとに思う時もある。しかし、日本にいる間にできるだけ多くのことをやりたいと思っている。「あと一学期だけでいいよ」と毎日自身に言う。このような複雑な気分であと少しだけ頑張り、ラトビアに帰る前に、皆としっかりと夏を楽しみたいと思っている。

Advertisement for 'Who's Who' magazine featuring a photo of Nakagawa Shizuo and text about his achievements and the magazine's content.

300号を迎えて

「生きていく化石」として名高いムカシトンボは河川の源流部に棲息し、幼虫生活は7年に及ぶ。このためムカシトンボが生きる環境は極めて良

好であることが分かる。成虫は4月中旬に現れ、晴れた日の昼には、沢を悠々とパトロールする雄や、産卵している雌を観察できる。その勇姿を見て、古に思い馳せるのも一興であろう。(写真・文II武藤将道生物2年、野生動物研究会)

好であることが分かる。成虫は4月中旬に現れ、晴れた日の昼には、沢を悠々とパトロールする雄や、産卵している雌を観察できる。その勇姿を見て、古に思い馳せるのも一興であろう。(写真・文II武藤将道生物2年、野生動物研究会)

好であることが分かる。成虫は4月中旬に現れ、晴れた日の昼には、沢を悠々とパトロールする雄や、産卵している雌を観察できる。その勇姿を見て、古に思い馳せるのも一興であろう。(写真・文II武藤将道生物2年、野生動物研究会)

300号特別企画

写真で見る

筑波大学

「今昔」

今年で38年目を迎えた筑波大学新聞。その歴史を、各号発刊当時の写真で振り返る。普段見慣れた大学の、見知らぬ姿はそこにある。(中島佳奈、長島一真、人文学類、鈴木かおる、比較文化学類、加藤茂行、地球学類) 関連記事は6、7面

創刊号 1974年

校舎未完成で開学

「筑波は、開かれた大学です。入学式も広々とした

月には校舎もほとんど完成していませんでした。梅雨の5月の連休前に早めの夏休みとなった。7月に学生生活が始まるも、体育館中央棟の上を1列で歩いた。途中で滑り、泥だらけで宿舎に帰る学生もいたと噂だ。



上：現在の2B棟前と板の通路 右下：青空入学式(1977年) 左下：現在の合宿所前バス停に群がる人々

100号 1987年

自動車の海つくば

1985年のつくば科学の矢宿舎(34・35号棟)が万博を機に、学内外で整備 完成した。同宿舎は留学生が進み、1987年に新1と一般学生との交流を深めることを目的に建設された。各部屋はユニットバス、トイレ、シャワーが備えられ、湯が出るのは15時から22時までだった。



上：完成した一の矢宿舎 右下：歩道に止まる自動車 左下：東京へ向かう直通バス(つくばセンター)

自動車所有する学生は、当時4割を超え、駐車場不足、違法駐車車の急増が

つくばセンターと東京駅を結ぶ直通バスが1987年に開通した。都心の往復が便利になったとの評判



航空写真



右上=創刊号当時。まだ整備が進まず「開かれている」 左上=100号当時。建物が増加し、整えられてきた 右下=200号当時。より現在の大学に近づいた 左下=現在。高い建物が目立つようになった

200号 1999年

狭い、汚い、暗いと思評の学生宿舎のうち、追越宿舎の26・27号棟の改修工事が1999年に完了し、協議に入った。統合に伴い、部屋を5倍の広さとし、設備も各室それぞれにユニットバスかユニットシャワー、空調設備、ミニキッチンを備えた。

「図書館情報専門学群」が新設され、同時に医療技術短期大学部(3年制)を廃止し、医学専門学群の中に「看護医療科学類(4年制)」を新設することを明らかにした。

他学と統合、学群新設



右：改修された追越宿舎 左上：図書館情報大学と統合 左下：ノーベル化学賞を受賞した白川英樹名誉教授(右)

大震災のつめ跡大きく

地震当日は、ライフラインが寸断し、学生生活にも大きな混乱が生じた。コンビニやスーパーからは水や食料が消え、ツボトルやポリタンクを持つイッターなどは給水や避けた人々が長い列を作った。眠れない一夜を過ごした。



上：散乱する図書(中央図書館4階) 右下：天久保公園で給水する人々 左下：平砂宿舎共用棟で眠れない夜を過ごす

300号 2012年 2011年3月11日に発生した地震で、本学も大きな被害を受けた。中央図書

館では、揺れにより多数の図書が落下・破損した。体芸図書館は、設備に深刻な被害を受け立入禁止。今年5月下旬の再開を予定している。

第28回 つくば芸術祭 芸術の花 咲き乱れる

スタン・プラリーなど新企画も

本学の芸術・文化系サークルが集まり、日頃の成果を披露するつくば芸術祭(主催・筑波大学芸術系サークル連合会)が5月3-6日につくばセンター周辺地区(つくば市吾妻)で開催された。

第28回目となる今回は、「百花繚乱 花薫るつくば」をテーマに、邦楽部やときめき太鼓塾など19の団体が出演や発表、展示を行った。

市民活動センターでは楽器体験、市民ギヤラーでは書道や洋服の作品展示が行われた。アルスホールでは4、5日にピアノやリコーダーの演奏会が行われ、多くの人が足を運んだ。

最終日には、アイアイモール前モニュメントプラザで4団体が屋外ライブを行った。津軽三味線倶楽部



無弦塾の三味線パフォーマンス

感想を語った。実行委員長の綿引たくみさん(日田2年)は「今年度は来場者の方に今まで以上に芸術祭を楽しんでもらえるよう、来場者撮影やスタ

山本文彦洋画自選展

洋画家の山本文彦名誉教授の自選展が、学生会館アートスペースで4月3日から6月10日に開催されている。今回の展示会は、山本氏の日本芸術院会員就任を記念するもので、代表作8点を展示している。日本芸術院会員就任は、芸術界での最高栄誉とされる。

展示では、山本氏の初期から現在までの作品の変遷を見ることが出来る。初期の作風は静物を幻想的に描くもので、1971年には50歳未満の新人洋画家に贈

「アン井賞」を受賞している。近年の作品は、叙情的な人物表現を取り入れている。

作品を鑑賞した城野紗貴さん(芸専4年)は、「山本氏の作風が大きく変わってきているのが興味深い」



「巖窟」に見入る来場者

復興祈念アート 小学生とともに絵を制作 復興への思い込める

東日本大震災の復興支援活動を行う本学の学生団体「Tsukuba for 3.11」が、大洗町の小学生らとともに「復興祈念アート」を製作した。

この活動は、3月25日に大洗町商工会が主催した「天洗祭」の海祭フェスタ



復興への祈りをアートに込めて

の二環として行ったもの。同団体のメンバーの吉井玲香さん(平成23年度芸術卒)らが地下となる絵を制作し、現地の子どもたちがフェルトなどの素材を魚介類の形に切り取り、この絵に貼り付けることで一枚の絵を完成させた。復興を祈るメッセージも多く書き込まれるなど、被災者と同団体のメンバーの復興への強い思いが託された。今回制作した絵は、震災を忘れず語り継ぐことに加え、この絵を見た人に「がんばろう」という気持ちを与えられるように」と、現在同市学生会館に展示されている。

吉井さんは「みんなの思いで、すてきな大洗町をつくりたい。一人一人の力が集まればきっと大きな力になる」と語った。

本紙4月9日付7面掲載の新生名簿に追加記載があります。

理工学群応用理工学類
◆栃木県
安達学(國學院大學栃木)

NHK生放送 NHK水戸開局70年 「ニュースワイド茨城」公開

NHK水戸開局70年「ニュースワイド茨城」公開
開局放送が5月24日(木)に学生会館講堂ホワイエで行われる。「ニュースワイド茨城」は、NHK県内総合で平日18時10分から放送している県内ニュース番組。司会

気象講演会

公開気象講演会「地球温暖化問題における科学者の役割」が5月26日(土)につくば国際会議場大会議室101(つくば市竹園)で行われる。一般市民の方々に気象に関する最近の研究成果などについて分かりやすく解説することが目的。本学の田中博教授(生環系)をはじめとして、気象学会の6人の科学者が講演し、パネルディスカッションを行う。

ジャグリング

ジャグリングサークルSheepの第1回春期公演が5月17日(木)に学生会館ホールで行われる。入場無料、入退場自由。開演は18時、開演は18時30分。

吹奏楽団講演

本学の吹奏楽団の第67回定期演奏会が6月16日(土)にノバホール(つくば市吾妻)で開催される。

今回は3部構成で、それぞれ榎谷雅徳作曲の「マリヤの7つの悲しみ」、ロジャーズの「サウンドオブミュージック」、ショスタコーヴィチの「交響曲第5番より4楽章」などが演奏される。

前売券が500円、当日券が700円、高校生以下は無料。15時30分開場 16時開演。

原 点 GEN-TEN



宮本陽一郎

20世紀アメリカ文学を専門にする私の原点がバロック音楽にあるという奇異に響くかもしれないが、振り返ってみると学生時代に浴びるように聞いた古楽演奏のレコードが、現在の研究の出発点になったように思える。

とくに先日口にした

バロック音楽から始まった研究

時代の文化から文学を探る

「鐘」で聞かせる、ピアノをいささかけなないバロック・ヴァイオリンの音色は、「ヴェルサイユ」や「ヴァイオリン」について私たちが持っていた先入観を、一

音で粉々に吹き飛ばすほどに、耳障りで挑発的であった。優美だった。古い音楽を、厳密にその時代の楽器でその時代の演奏法で再現して、いささか色付けしないという気難しい歴史主義が、未知との遭遇の衝撃をもたらしているというのはいささか

なかつたことで、このレコードをかけるたびにそのときの戦慄が戻ってくる。その後レオンハルトやアーノンクルの古楽運動の成果が、バロック音

点を持つとは夢にも思わなかつた。1980年代後半に、文学研究で新歴史主義と呼ばれるアプローチが注目されるようになったとき、私はすでに10年以上にわたってそ

「Wall Art Festival in India」の教室の壁をキャンパスに、インドと日本のアーティストが即興で共同作品を作り上げていく芸術祭だ。イベントの運営にあたり、日本各地からも学生ボランティアを募って行われ

大学独自で報告会が行われているのは本学だけで、今年で2回目になる。インドホランティアスタッフとして参加した学生を中心に、インド在住のスタッフも参加。今回は芸術祭の開催理由をはじめ、実施への道のり、当日の様子などを報告する。また、ダンサーやシンガー

ソングライターによるパフォーマンス披露、アーティストやモデルによるトークショーも行われる。当日16時から、虹の広場で学生の夢を描いた150枚の風を空に飛ばすイベントも行われる。風作りのワークショップは5月7、9、11、14、16、18日の昼休みに3A棟入り口で行われる。

学生会館書籍部ベストセラー

1	1Q84 book1 前編	村上春樹/新潮文庫
2	1Q84 book1 後編	村上春樹/新潮文庫
3	公務員試験 速攻の時事	実務教育出版
4	聖女の救済	東野圭吾/文春文庫
5	舟を編む	三浦しをん/光文社

第1位、第2位には「1Q84」スポーツイラストレーターであり、同時に暗殺者の顔をもつ主人公の物語と、予備校教室で小説家を目指す主人公の物語が交互に繰り返される。また3位には公務員試験対策本もランクイン。教科書販売まもなく終了。TOEIC攻略本、各種取り扱い有り。



ルポ セグウェイに乗ってみた

「ロボットのまちつくば」の象徴セグウェイ。1人用の立ち乗り型モビリティロボットだ。現在の法律上、小型特殊自動車に分類される。このセグウェイに試乗できるのは市の無料ツアーが5月から2回、定期的に開催されている。つくば市は日本で唯一、一部の公道でセグウェイに乗った実験を行うことができる地域で、ツアーでは「ロボット実験区域」に指定されている公道でセグウェイを進むことができる。このツアーに参加してみた。(鈴木かおる 比較文化学類)

ツアー前に、約30分の練習時間をもらって乗るセグウェイは重く、ハンドルを持って立たせるのも大変だった。底部の起動スイッチを踏み、早速乗ってみる。所定時間終了後、乗るセグウェイは、体の傾きを自動感知して前進や後退を行う。セグウェイは、傾きを感知して自動的に旋回する乗り物なので、斜めに進んでしまっても、肩に力が入ってバランスを

崩した状態では、変な方向に進むのは当然。インストラクターに何度も支えてもらうという、情けないセグウェイデビューとなった。なんとかバランスを保つと、一カ所に留まることができるようになった。このあと、直進や右折・左折など、基本操作を学んだ。まさに視界を確保し、体重を前に傾けると前進、止まるときは、体重を後ろに戻す。行きたい方向を見、その方向に肩を回すと、自然にハンドルを動かして方向転換できる。行きたい場所を先に視線でとらえ



短時間でコツをつかめる

は、自転車と一緒だ。練習が終るころには、好きな方向へ行けるようになった。あるだろうか。ツアーはここでスタート。今回は、つくばつくばセンター付近の歩道サイエンスインフォメーションセンターから松見公園まで折り返す約5.5キロのコースだった。この日は日差しが強く、風が心地よい「セグウェイ日和」。つくば市中央公園では月1回のマルシェ(市場)が開かれ、GW最終日とあって松見公園は家族連れらで、お父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんにぎわっていた。インストラクターと6人の参加者が、一定のスピードでたて一列になって出発すると、セグウェイは騒音も無くて静かに進む。現在のところ、横断歩道では一度降り、セグウェイを押し歩かなければなら

インストラクターに支えられ、セグウェイ初体験

ションセンターから松見公園まで折り返す約5.5キロのコースだった。この日は日差しが強く、風が心地よい「セグウェイ日和」。つくば市中央公園では月1回のマルシェ(市場)が開かれ、GW最終日とあって松見公園は家族連れらで、お父さんお母さんおじいちゃんおばあちゃんにぎわっていた。インストラクターと6人の参加者が、一定のスピードでたて一列になって出発すると、セグウェイは騒音も無くて静かに進む。現在のところ、横断歩道では一度降り、セグウェイを押し歩かなければなら

い。私の場合、自転車で乗っている間は目的地に向かうことができて、周りの景色を楽しめる余裕などほとんどないが、セグウェイは新緑の中で風と景色を楽しむことができる。1985年に開業されたつくば万博の象徴であるロケットの前で記念撮影したあと、松見公園で日差しと池を堪能してからスタート地点へと帰った。グウェイツアーに参加して1時間程度だったが、初世代の乗り物での散歩を心者でも少し練習すれば簡単に乗りこなせる。快適な移動手段、セグウェイの可能性を感じる散歩になった。セグウェイは「HP」http://www.rt-usukuba.jp/segwaytour/ (関連写真は12画)

別だ。時速50キロ程度でゆっくりと安定して走れるので、20分ほど高い位置から周囲を広く見渡す余裕もできる。歩いている歩行者とあいさつを交わす。1985年に開業されたつくば万博の象徴であるロケットの前で記念撮影したあと、松見公園で日差しと池を堪能してからスタート地点へと帰った。グウェイツアーに参加して1時間程度だったが、初世代の乗り物での散歩を心者でも少し練習すれば簡単に乗りこなせる。快適な移動手段、セグウェイの可能性を感じる散歩になった。セグウェイは「HP」http://www.rt-usukuba.jp/segwaytour/ (関連写真は12画)

化されている。インストラクターによると、観光客がセグウェイに乗って凱旋門をくぐるツアーなどもあり、親しまれているという。ゆったりとしたスピードで、景色を楽しめるセグウェイ。今後は京都や奈良などの観光地での実用化に期待したい。皆さんも、セグウェイツアーに参加して1時間程度だったが、初世代の乗り物での散歩を心者でも少し練習すれば簡単に乗りこなせる。快適な移動手段、セグウェイの可能性を感じる散歩になった。セグウェイは「HP」http://www.rt-usukuba.jp/segwaytour/ (関連写真は12画)

世界チームカップ・ラート選手権 日本チームが銀メダル獲得



美しい演技を見せる堀口

体操

第6回世界チームカップ・ラート競技選手権大会が3月30日、4月1日にスイスのバーゼルとドイツのラムシュタインで行われた。本学からは堀口文佳(4年)、田村元延(平成23年度体育卒業)が日本チームとして出場し、銀メダルを獲得した。

エアロビ 諏訪部が8位入賞

体操

第20回関東学生弓道選手権大会が5月5日、大宮公園弓道場(さいたま市大宮区)で行われた。本学女子団体は藤原楓(体専2年)、谷口志緒(同3年)、伊藤杏奈(同3年)が出場。1回戦の白鷲大戦で進決勝の国際武道大戦と順調に勝ち進み、決勝では茨城大と対戦。先攻の本学は12射5中、後攻の茨城大は12射7中で本学は準優勝となった。個人では伊藤と谷口が出場し、伊藤が5位という成績を収めた。

男女とも準優勝

弓道

第20回関東学生弓道選手権大会が5月5日、大宮公園弓道場(さいたま市大宮区)で行われた。本学女子団体は藤原楓(体専2年)、谷口志緒(同3年)、伊藤杏奈(同3年)が出場。1回戦の白鷲大戦で進決勝の国際武道大戦と順調に勝ち進み、決勝では茨城大と対戦。先攻の本学は12射5中、後攻の茨城大は12射7中で本学は準優勝となった。個人では伊藤と谷口が出場し、伊藤が5位という成績を収めた。

小寺が堂々優勝

柔道

グランプリ・バクー大会が5月5～6日にかけてアゼルバイジャンのバクーで開催された。この大会はグラッドスラム大会に次ぐ規模の大会とされる。本学からは小寺将史(体専4年)が出場し、見事優勝を果たした。

スモあり、決勝に進出した。決勝では大東文化大と対戦。先攻の同大は20射15中、後攻の本学は20射13中で準優勝。個人では吉田が出場したが入賞は逃した。

首都大学野球春季リーグ 守備は宮谷が好投 攻撃伸びず2部降格か

野球

首都大学野球春季リーグ戦が行われている。本学は5月10日現在、勝ち点0の成績で最下位。2部降格の危機に直面している。



打線の援護を待ち好投する宮谷

から首都大学野球春季リーグ戦が行われている。本学は5月10日現在、勝ち点0の成績で最下位。2部降格の危機に直面している。開幕試合の東海大戦。先発の宮谷陽平(体専3年)が2失点完投と好投したものの、打線が無得点と援護することができず、敗戦。昨季からの課題だった打線が機能しなかった。第2回戦も2-6で敗れた。続く帝京大戦。第1回戦は宮谷が先発し、東海大戦に続き、好投した。5回までを無失点に抑え、打線の援護を待ち好投する宮谷が、2回戦は5-1で勝利したものの、第3回戦は0-2で敗戦。先に2勝したチームが勝ち点を手にする。林竜希(同4年)が連続でバントを失敗。チャンスを生かすことができなかった。試合が動いたのは6回表。相手打者のライトフライを平井が落球、出塁を許してしまう。宮谷はこのピンチにツーベースを浴びて

しい失点。この1点が試合を決め、0-1で敗れた。第2回戦は5-1で勝利したものの、第3回戦は0-2で敗戦。先に2勝したチームが勝ち点を手にする。林竜希(同4年)が連続でバントを失敗。チャンスを生かすことができなかった。試合が動いたのは6回表。相手打者のライトフライを平井が落球、出塁を許してしまう。宮谷はこのピンチにツーベースを浴びて

戸邊が優勝

陸上

ロンドン五輪代表選考会を兼ねた陸上競技の日本グランプリシリーズ開幕戦である第60回兵庫リレーカーニバルが4月21～22日に神戸総合運動公園陸上競技場(兵庫県神戸市)で行われた。本学では、男子走り高跳びの戸邊直人(体専3年)が、16歳の記録で優勝した。なお、男子走り高跳びのロンドン五輪A代表の基準となる標準記録は2.31メートル。

第28回日本ジュニア陸上競技選手権大会(長距離競走)が5月3日に石川県西部緑地公園陸上競技場(石川県金沢市)で行われた。ジュニア女子5000メートルでは久馬萌(同1年)が16分2秒45で2位、久馬悠(同)が16分3秒90で3位入賞を果たした。

東日本セブンス 去年の雪辱晴らし、優勝

ラグビー

Y&A C ジャパンセブンスでも準優勝

△日本一であるタマリバ
△日本一であるタマリバ
△日本一であるタマリバ

ラグビー

Y&A C に健闘

第53回Y&A C ジャパンセブンスが4月8日にY&A C グラウンド(横浜市中区)で行われ、本学はチャンピオンシップトーナメントで準優勝した。

当大会は1959年から続く国内の7人制ラグビー大会。実業団なども参加している。本学は初戦で実業団チーム日本一であるタマリバクラブに21-12で勝利し、チャンピオンシップに進んだ。2回戦で戦ったキヤノンイーグルスには24-0で圧勝し、続く3回戦の早稲田大には17-5で勝利。順調に駒を進めた。そして決勝戦では、ホストであるY&A C と対決。外国人選手がそろい、3大会連続優勝を果たしている強豪チームに、26-28で惜しくも敗れた。古川拓夫監督(体育系・講師)は「1回戦は苦しんだが、試合を重ねるごとに内容がよくなっていった。最高峰の強さを持つY&A C には圧倒されたが健闘できた」と話した。



相手選手の猛攻をくいとめる本学ラグビー部 (写真提供 = T S A)

運動部ユニホームカラー

FUTURE BLUEで統一 決意新たに日本一を目指す

本学運動部のユニホームカラーなどの統一が進められていることが4月26日発表された。

色調は「FUTURE BLUE」を基調とした鮮やかな青色となり、校章やエンブレムも統一。今まで部ごとに異なる色だったもの



統一ユニフォームに身を包み、笑顔の本学選手ら

の一体感を持たせることが狙いだ。

ラグビー部の内田啓大選手(体専4年)は、「水色でいく」と意気込みを語った。

これからの試合を振り返って古川監督は、「7人制ラグビーでも、普通の15人制と同じように、ボールを継続して持ち続け、アタックを増やすスタイルのプレーで臨んだ。従来から評価されているディフェンス力も伸ばし、今年こそは日本一をつかみたい」と話した。

春季関東大学バレーボールリーグ戦

男子が1位につける

対戦し、試合開始当初から競り合う展開となるも、セットカウント3-1で勝利。2日目は日本女子体育大と対戦。序盤は押されるも持ちこたえ、中盤からは試合をリード。その後も勢いを保ち、3-0で快勝。しかし3日目の日本体育大戦と4日目の青山学院大戦では序盤から相手にリードを許し、ともに0-3でス

トレット負けという結果に終わった。

中西康己監督(体育系)は「試合前に人があつたために新人もレギュラーとして出場した。またポジションの変更もあり、チームとして自信を持ったプレーができなかった。調子が良いとは言えないが、残りの試合もあきらめず、しっかりと戦っていきなさい」と話した。

男子は初日に慶應義塾大で2日目に早稲田大と対戦し、ともに3-0で勝利。3日

目は明治大と対戦し、序盤から競り合う展開となった。第1セットを奪われるが、その後ペースを取り戻し、第2、3セットを連取。だが第4、5セットともに相手にリードを許して2-3で敗れ、悔いの残る試合となった。その後4日目の日本体育大戦ではフルセットまで持ち込まれるも3-2で辛勝。続く5日目も3-0と中央大にストレートで勝利し、優勝に向けて着実に勝ち進んでいる。

第86回関東大学サッカーリーグ戦 4勝2敗で2位につける 赤崎が得点ランキング1位に

サッカー

第86回関東大学サッカーリーグ戦の前期日程が、4月7日から6月24日にかけて国立西が丘サッカー場(東京都北区)などで行われている。本学は5月10日、開幕3連勝。好調を維持していた。

4勝2敗の勝ち点12で2位につけている。

開幕戦で神奈川大を4-0と圧倒した本学。その流れに乗り、中央大戦で大量点を奪い、6-2で連勝。早稲田大戦も2-0で勝利

とつづいて第4節で、これまで未勝利の東京学芸大に後半で逆転され、連勝がストップ。国立館大戦は勝利したものの、日本体育大戦は終盤に勝ち越し点を奪われ、敗戦した。敗因はどちらも後半の守備であり、課題を残す結果となった。

個人記録では、赤崎秀平(体専3年)が得点ランキング1位に、上村岬(同)がアシストランキング1位につけるなど、タイトルの獲得に期待できる。

女子は現在3位 男子は7位と不振

ハンド

2012年関東学生ハンドボール連盟春季リーグが墨田区体育館(東京都墨田区)で、東京女子体育大などの各会場で、4月14日から5月27日まで開催されている。

女子は現在4勝1敗1分、現在3位。現時点で唯一

敗れた東京女子体育大戦は、前半は常にリードしていたが、後半の出だしに連続失点し、一時は同点に追い付くも惜敗した。主務の中山紗織選手は「大量リードを許さない粘り強さはあるが、相手突き放すような爆発力を持っていないことが課題」と話す。今後は国立館大、他2校との試合がある。男子は東海大、日本体育大に勝利するも、3勝4敗で現在7位。今後は順天堂大、日大との試合を残

自由な時間が少ない中でも、一人練習を重ねてきた。2010年U-17 W杯決勝、日本代表は韓国にPK戦で敗れ、準優勝に終わった。日本がボールを支配していたにもかかわらず、PK戦に持ち込まれたことが、今も悔しい。その反省を生かして、

ボランチは、攻守両方に関わり、試合全体を見なければならぬ重要なポジションだ。2011年W杯優勝を果たしたなでしこジャパンメンバーの中でも、ボランチに選ばれたのは、彼女が持つ「ポスト守備」は、バルセロナで司令塔として活躍するスペイン代表MF、シャビ選手のように、早いポジションニングと高速パスなどテクニックを武器とする次世代型攻撃的MFだ。

本学にいるなでしこジャパン、熊谷紗希選手(体専4年)、安藤梢選手

「サッカーがない人生は考えられない。はっきりと語る彼女の大きな瞳は、サッカーへの情熱と未来のなでしことしての夢に満ち溢れていた。」

「なでしこ」が目標。なでしこジャパンの影響でU-20にも注目されている。たかさんの人に試合を見てもらって、サッカーの楽しさを知ってもらえた」と話す。

なでしこ 未来のヒロイン

U-20日本代表 猶本光 (体専1年)

自由な時間が少ない中でも、一人練習を重ねてきた。2010年U-17 W杯決勝、日本代表は韓国にPK戦で敗れ、準優勝に終わった。日本がボールを支配していたにもかかわらず、PK戦に持ち込まれたことが、今も悔しい。その反省を生かして、

ボランチは、攻守両方に関わり、試合全体を見なければならぬ重要なポジションだ。2011年W杯優勝を果たしたなでしこジャパンメンバーの中でも、ボランチに選ばれたのは、彼女が持つ「ポスト守備」は、バルセロナで司令塔として活躍するスペイン代表MF、シャビ選手のように、早いポジションニングと高速パスなどテクニックを武器とする次世代型攻撃的MFだ。

本学にいるなでしこジャパン、熊谷紗希選手(体専4年)、安藤梢選手

「サッカーがない人生は考えられない。はっきりと語る彼女の大きな瞳は、サッカーへの情熱と未来のなでしことしての夢に満ち溢れていた。」



U-20日本代表 猶本光 (体専1年)

Who's Who?

つくば院生ネットワーク (TGN) 代表・副代表

川島裕嗣さん (物分博士課程1年)
ぜんぼ
善甫啓一さん (知機博士課程3年)



川島さん(右)と善甫さん(左)

本学は、全国的にも専攻分野の幅広さや分野間の垣根が低いことに定評がある総合大学だ。しかし、私たちはその利点を、本当に活かし切れているのだろうか。本学の特性を活かし、豊かな社会の実現を目指して、本学院

生を中心に活動している団体がある。2010年に発足し、約20人が活動するつくば院生ネットワーク(TGN)だ。現在、川島裕嗣さん(物分1年)と善甫啓一さん(知機3年)が代表と副代表を務める。院生らが、自分の研究を分りやすくプレゼンテーションする各技術を競う、学園祭企画「院生プレゼンバトル」。教員からプレゼン技術を学ぶ、大学院共通科目「教員プレゼンバトル」。さらに、毎週月曜日の朝8時から中央図書館前で院生が研究発表を行う「MONDAY MORNING INSTITUTE」……。TGNはこれらのプロジェクトの企画・運営を行う。

高学歴の人材が、社会で職を得るのに苦勞する

学際性生かしてネットワーク作り

現状がある。代表の川島さんは博士卒の人が能力を社会に還元するためのノウハウを知らないことに問題意識を感じており、多くの人がそれを意識して主体的に行動できる場づくりをしたい」という。副代表の善甫さんは「大学の運営に関して、学生も役割を担える部分が多くあるはずだ」と話す。自ら行動する学生の集まりであるTGNは、人間の「ネットワークを創る場」を提供する。例えば、現在開講されている大学院共通科目「教員プレゼンバトル」はTGNの院生が作った授業だ。研究者が国などに研究費を提供してもらうためには、自分の研究に関する説明責任が発生する。その責任を果たすために、誰にでも研究内容が理解できるようにプレゼンする技術が必要だ、という考えがこの企画を生んだ。この授業を受講する人に、本学が持つ専攻分野の「多様性」を感じてもらうために、1回の授業の中で、異分野からの3名の教員がプレゼンを行う。授

業中は、教員も受講者の学生も、互いを尊重した上で「さん」と呼び合う平等な関係になる。質疑応答では、質問者は必ず自己紹介をした上で、質問をする。その場限りの関係に終わらせず、参加者のその後の交流につながるためだ。「活動の中で印象に残ったのは本学がとても良い大学だということ」と善甫さんは話す。「各種の仕事を手伝ってくれる事務職員の方々や仲間に加わってくれる教員の方々、茗溪会のサポートが親身。(企画を始めようとする)火付け役さえいれれば何でもできる。活動を通して、学ぶことは多い。」「他分野の人と関わることで、広く社会の中での自分の立ち位置(役割)が分かり、将来進むべき方向も見えてくる」と川島さん。善甫さんは「研究活動は一つの事を深化させるが、人としての幅を広げられるのが課外活動。両立するためのバランスのとれた方を学んだ」といい「人に直接会いに行くこと

で、(コミュニケーションがとれ)物事がスムーズに運ぶと実感している」と笑う。学生生活の過ごし方はその後の人生に大きく影響して行く。先輩の中から目指す姿を見つけてもらうために、春に学類と大学院の新生を対象に「プレゼンバトル」を開催する計画もある。TGNは大学の組織や研究環境などに関して問題意識を持った、石田尚さん(11年シス情修)ら院生10数名が発起人となり発足。「課外活動を行う院生は特別に見られがちだが、これがスタンダードになっていく欲しい」と善甫さん。川島さんは「一人との対話の中で、アイデアや意欲が自然と生まれる風土の拡充を目指していきたい」と意気込みを語る。

TGN発のネットワークが、あらゆる垣根を超えて広がり、豊かな社会の実現に貢献する。それは単なる夢物語ではない。彼らのリーダーシップに注目したい。(小川玲社会学類)

次号は

6月11日(月)

発行予定です

編集後記

絶対のセクワイイ日和かと思われた、編集期間中の5月6日。突然照明が消え、編集用のパソコン画面が全て真っ黒になりました。一瞬、プレーカーが落ちたのかと思いましたが、つくば市を突如襲った電停による停電でした。その後も電気が復旧せず、やむなく作業を中断しました。北条地区の惨状を目の当たりにして驚いたのも本果奈

つかの間、否が応でも締め切りが迫ります。今号から初めて編集期間に参加した福原先生と共に、遅れを取り戻すための必死な作業が続きました。さて、今号で本紙は300号を迎えました。昔も天災によるハプニングがあったのですが、先輩たちもそのたびに乗り越えてきたのでしょいか。忘れた頃にやってくる災害に備え、準備はぬかりなくしたいものです。(編集長川松本果奈)

キッズ・ユニバーシティ



小学校では受けられない授業。1日だけ大学生になりました。

4面へ

つくば芸術祭



三味線、合唱、フォークローレ。世界中の芸術をつくばに。

9面へ

セグウェイに乗ってみた



つくば市内を回るセグウェイツアー。参加してみたいかがだろうか。

10面へ

統一ユニホーム発表



新しいユニホームを身にまとい、未来に向け駆け抜ける。

11面へ

学生生活

学芸

スポーツ

スポーツ